

＜厳肅な命令＞

Ⅱ テモテ 4 : 1 ~ 5

私たちが証しをしたその先に、どんなことが起こるのだろうか？

- ◆神が愛であることを知らず、その愛から外れたところで自分の身を痛めている人たちを、神の愛に招くことができる。

主は、ご自分の羽で、あなたをおおわれる。あなたは、その翼の下に身を避ける。主の眞実は、大楯であり、とりである。あなたは夜の恐怖も恐れず、昼に飛び来る矢も恐れない。また、暗やみに歩き回る疫病も、眞昼に荒らす滅びをも。 詩篇 91 : 4 ~ 6 節

【聖書の中に出て来る、イエス様と出会った人たちの個人的な証し】

1) サマリヤの女性 (ヨハネ 4 章)

周囲から後ろ指を指されるような私生活送っていた女性。イエス様と出会い、あきらめていた自分の人生に希望がある事に気づいた。罪赦された自分、古い自分から解放された喜びが湧いた。

「来て、見てください。私のしたことを全部私に言った人がいるのです。この方がキリストなのでしょうか。」

そこで彼らは町を出てイエスの方へやって来た。 ヨハネ 4 : 29、30

証しはイエスの元へお連れするガイド役。その後、イエス様との個人的な出会いによって救われる。

彼らはその女に言った。「もう私たちは、あなたが話したことによって信じているのではありません。

自分で聞いて、この方がほんとうに世の救い主だと知っているのです。」 ヨハネ 4 : 42

2) 生まれつき目の不自由な男性 (ヨハネ 9 章)

イエス様を神の子として認めようとしなないユダヤの指導者は、盲人のいやしを否定した上で、何故見えるようになったのかを問いただす

彼は答えた。「あの方が罪人かどうか、私は知りません。ただ一つのことだけ知っています。私は盲目であつたのに、今は見えるということです。」 ヨハネ 9 : 25

全てを理解したのでもなく、神学を極めたわけでもない。でも、このことだけは知っている。

イエスキリストによって、私の人生は変えられた！

3) 弟子のペテロとヨハネ

「私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません。」 使徒 4 : 20

- ◆ 天の父なる神様は私たちに、自分の証しをこの世に対してはっきり伝えるように命じている。

主に感謝して、御名を呼び求めよ。そのみわざを国々の民の中に知らせよ。 詩篇 105 : 13

主の栄光を国々の中で語り告げよ。その奇しいわざを、すべての国々の民の中で。 詩篇 96 : 3

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。」Ⅱテモテ 4 : 2

「時」・・・カイロス(ギリシャ語) 機会やチャンスという意味。